

出張報告

報告日 令和3年11月15日

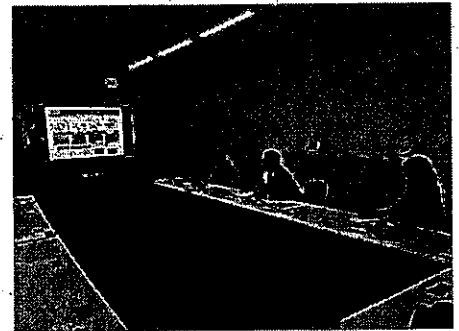
会派名	民友
報告者氏名	相澤宗一、佐藤和典、近藤由香里
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究 (<input type="checkbox"/> 行政視察) <input type="checkbox"/> 研修会 <input type="checkbox"/> 要請・陳情 <input type="checkbox"/> 各種会議
用務	福島第一原子力発電所
日時	令和3年11月4日(木) 12:30~16:30
場所 (会場)	福島県双葉郡大熊町
調査項目等	廃炉作業の進捗状況について
概要	<p>◆対応者(東京電力ホールディングス株式会社) 東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー 廃炉コミュニケーションセンター副所長兼リスクコミュニケーター ████████ 氏</p> <p>◆廃炉資料館 ①シアター上映(地震発生から原子力事故とその対応) ②館内説明</p> <p>◆事務本館会議室(廃炉・汚染水・処理水対策の概要) ①廃炉の主な作業項目と作業ステップ ・使用済燃料プールからの燃料取り出し: 3, 4号機完了。1~2号機準備中 ・燃料デブリ(事故で溶け落ちた燃料): 1~3号機取り出し準備中。 ②処理水対策 ・多核種除去設備等処理水(ALPS処理水)は海洋放出を基本方針とすることが決定。 ③汚染水対策 ・処理水は溶接型タンクで保管。陸側遮水壁、サブドレン等の重層的対策などにより汚染水の低減を図っている。</p> <p>◆福島第一原子力発電所・構内視察 ①既設多核種除去設備(既設ALPS) ②増設多核種除去設備(増設ALPS) ③1~4号機原子炉建屋外観俯瞰エリア ④地下水バイパス設備 ⑤サブドレン浄化設備 ⑥海側設備 ⑦6号機非常用ディーゼル発電機 ⑧雑个体廃棄物焼却設備 ⑨固体廃棄物貯蔵棟(第9棟) ⑩乾式キャスク仮保管設備 ⑪免震重要棟</p>



- ⑫高性能多核種除去（高性能 ALPS）設備
- ⑬ALPS 処理水サンプル

◆確認事項

- ・ALPS フィルター破損が報道されたが、実際はベント管のフィルターが破損しており、報告が遅れたことが指摘対象となった。ALPS 自体の性能に問題ない。
- ・2021 年 4 月に ALPS 処理水の海洋放出方針が閣議決定されてから理解活動を進めてきた。地元漁業組合等の理解は得られつつあるが、消費者に対する理解促進が課題となる。
- ・発電所構内に倒れた鉄柱等をアーカイブ的に保存し、東日本大震災による事故を知らない若い社員に対する教育の一貫としている。コロナ禍以前は柏崎刈羽原子力発電所との交流もあったが、現在は中断している。
- ・構内の放射線量が下がり一般作業服で活動できるエリアが多い。そのことにより作業全体が進んでいる。
- ・構内の地下水等（ALPS 処理水以外）はトリチウム 1500 ベクレル以下/ℓ で既に海洋放出している。ALPS 処理水もトリチウム含有水という意味では同じであり、さらなる理解促進が必要。



所 感 等

【相澤宗一】

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故から 10 年が経過、ほぼ毎年、相双地区の復興並びに福島第一原子力発電所の復旧状況を確認させてもらっている。大熊町では新しい商業施設、交流ゾーンが今年度開設、発電所構内では協力企業の建物を徐々に使用し始めるなど、時間経過による線量低減もさることながら、関係各位の努力に敬意を表したい。廃止措置作業において処理水・燃料デブリ対策には困難が多いが、着実に前進しているように感じた。柏崎刈羽原子力発電所では暗いトンネルに入り込んでしまった観があるが、福島第一事故の経験からあらゆる事象の可能性を考え、安全を最優先に信頼回復に努めていただきたい。

【佐藤和典】

政府は今年 4 月、東京電力福島第一原発の処理水を海洋放出する方針を決めた。そして、東京電力は海底トンネルを掘って第 1 原発の沖合 1 キロの海中に処理水を放出する計画とした。政府としては、風評被害への強い懸念がある中、「決して風評での影響を生じさせない」との強い決意をもって対策に万全を期すとしている。また、それは 2 年後に放出を始めるとしている。まだ先のこととは言え、東京電力も含め状況が全く進展していないように思える。東京電力だけに任すのではなく、政府の強力な指導が改めて必要だと感じた。

【近藤由香里】

福島第一原子力発電所での廃炉作業は、放射線量の低減により、この 1 年でかなり進んでいた。また今年 4 月に ALPS 処理水の海洋放出方針が決定し、廃炉作業全体が新たなステップに入っていると感じた。ALPS 処理水も一般の汚染水も残留するのは同じトリチウムであり、後者はすでに海洋放出している。科学的な根拠をもとに「ALPS 処理水だから危険」という風評を払拭し、周辺海域の魚介類が安全であるとのキャンペーンを行う等して、消費者への理解促進を進めることが大切だと思う。私自身も風評払拭につながる活動をしていきたい。